

研究・調査報告書

報告書番号 263	担当 独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳) Antithrombotic Effect of Polyphenols in Experimental Models: A Mechanism of Reduced Vascular Risk by Moderate Wine Consumption. 実験モデルにおけるポリフェノールの抗血栓症効果;適度なワイン摂取による血管のリスク減少メカニズム	
執筆者 De Gaetano G, De Curtis A, Di Castelnuovo A, Donati MB, Iacoviello L, Rotondo S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Ann N Y Acad Sci. 2002 ;957:174-188.	
キーワード ワイン、ポリフェノール、心臓病	
要旨 <p>疫学的な研究により適度なワインの摂取が心臓病を減少させる効果があることが報告されているが、ワインの摂取量と心臓疾患に関しての量的な関連性については明らかにされていない。そのため、ワインの消費に関連した心臓病リスクの関連をベースとして選んだ19の研究を比較検討し、高度な分析を実行した。その結果、適度のワイン消費(1-2杯または150-300ml/day)はワインを全く飲まない人に比べ、有意にリスクの減少が観察された。以前に飲酒者であった人を除いた5つの研究で、ワイン消費と心臓病リスクとの関連は0.61であった。ワインの摂取量と心臓病の間の摂取量に応じた関連性はJカーブを描き、300ml/dayで有意なリスクの減少が観察された。ワインのポリフェノールが血栓症に与える効果を実験的にラットを用いて行った2つの研究がある。10日間のアルコールフリーの赤ワインの添加(白ワインではない)やアルコール誘導性の静脈血栓症はNO合成阻害剤L-NAMEにより鈍くなった。食事性抗高脂血症をもつラットでアルコールフリーの赤ワインの添加は血栓症生成を遅延させたが、コレステロール増加やTGレベルには影響しなかった。TRAP値はアルコールフリーワインを摂取した動物で有意に高くなった。それらの実験のデータを全てまとめると、ポリフェノールによる抗血栓症の役割は適度なワイン摂取と心臓病リスクの減少と関連があることが疫学的研究により支持される。</p>	